

胆石ってどんな病気？

病状に応じた適切な治療を

日本では、食生活の欧米化、高齢化により、胆石の頻度が増え、成人の10人に1人は胆石を持っていると言われる、身近な病気の一つです。今回、胆石のような病気では、どのような時に治療が必要になってくるかについて、お話しします。

胆石は肝臓で作られるよって、胆のう結石、胆汁の通り道で固まって結石になる病気です。胆管は、肝臓で作られ、胆汁を通り、胆のうに蓄えられます。食事をすると、胆のうが収縮し、胆汁は十二指腸へ排出されます。胆石はできる場所によ

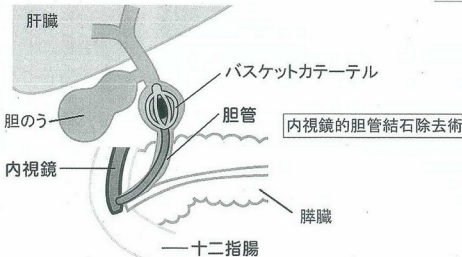
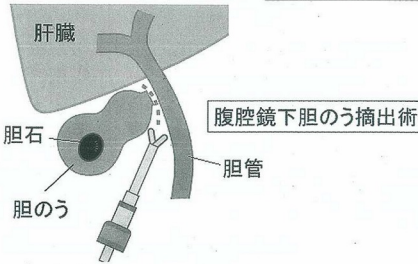
って、胆のう結石、胆管結石に大きく分けられます。胆石の多くは無症状ですが、胆石が胆のうの入り口や胆管を塞ぐと、胆汁の流れが滞り、右上腹や胆管で炎症を起こす腹痛、背部痛、嘔吐が出現します。胆石の症状は、脂肪の多い食事を食べた後に出現しやすい特

徴があります。胆汁の滞りが解除されれば、症状は数十分から数時間でまわります。しかし、胆管や胆管で炎症を起こす腹痛、背部痛、嘔吐が出現します。胆石の症状は、脂肪の多い食事を食べた後に出現しやすい特

を伴います。胆石は、症状がなければ、経過観察が一般的です。脂肪の多い食事を控え、適度な運動をすることで、胆石発作の予防として重要です。しかし、胆石の症状がある場合は、治療が必要になります。胆石の治療は、胆のう結石と胆管結石で異なります。胆のう結石は、お腹に小さな穴をあけ、腹腔鏡をお腹の中に入れて、胆管まで進めます。内視鏡の先端から胆管へ細いチューブを入れ、胆管に造影剤を注入し、レントゲンで胆石を確認し、バスケットカテーテルなどの道具で結石をつかんで十二指腸へ取り出します。

胆石は無症状であれば、日常生活に問題はありませんが、また、症状が軽く、一時的であることもあり、病院を受診されず診断されていない方も多くいらっしゃいます。胆石の症状がある方、以前胆石と診断された方は、腹部超音波検査だけではなく、CT、MRIなどの詳しい検査を専門家のいる施設で受けられることをお勧めします。(セントルシア病院消化器科・植木俊彦先生)

知っておきたい 病気
宇部市医師会内科医会



胆石は、症状がなければ、経過観察が一般的です。脂肪の多い食事を控え、適度な運動をすることで、胆石発作の予防として重要です。しかし、胆石の症状がある場合は、治療が必要になります。胆石の治療は、胆のう結石と胆管結石で異なります。胆のう結石は、お腹に小さな穴をあけ、腹腔鏡をお腹の中に入れて、胆管まで進めます。内視鏡の先端から胆管へ細いチューブを入れ、胆管に造影剤を注入し、レントゲンで胆石を確認し、バスケットカテーテルなどの道具で結石をつかんで十二指腸へ取り出します。

胆石は無症状であれば、日常生活に問題はありませんが、また、症状が軽く、一時的であることもあり、病院を受診されず診断されていない方も多くいらっしゃいます。胆石の症状がある方、以前胆石と診断された方は、腹部超音波検査だけではなく、CT、MRIなどの詳しい検査を専門家のいる施設で受けられることをお勧めします。(セントルシア病院消化器科・植木俊彦先生)